

2016年のアカデミー賞受賞者の、レオナルド・ディカプリオなど、ハリウッドでは環境問題に熱心なスター達はめずらしくありません。映画『アバター』と『タイタニック』で全世界の歴代興行収入1位と2位を独占する巨匠ジェームズ・キャメロン監督も、環境問題に熱心な海洋学者として有名です。そんなキャメロン監督と『タイタニック』の撮影で出会い、結婚した女優のスージー・エイミスが運営する、革新的な学校について、アメリカの環境雑誌がとりあげているのでご紹介しましょう。

スージー氏と夫のジェームズ・キャメロン監督には5人の子ども達がありますが、多くの学校で、子ども達の創造性の芽をつむような教育がなされていると感じたそうです。また、環境やサステナビリティへの配慮がほとんどない給食が提供されていました。そこで彼らは2006年にカリフォルニア州カラバサスにMUSEという学校を設立します。

MUSEでは環境教育を基礎方針とし、それぞれの生徒が持つ情熱や彼らの興味に沿った学び方を大切にしています。そして、安全で持続可能な学校用品もさることながら、同校が真に環境に配慮したユニークな学び舎として注目されている理由は、その給食にあります。この学校では給食が完全な菜食メニューなのです。実は温室効果ガスの排出と水の消費に対する畜産の影響は大きく、

一日一回の学校給食を菜食にすると = 約74万ℓの節水が可能

ハンバーガー1個に必要な水 = 約17,000ℓ

1ガロン(約3.8ℓ)の牛乳に必要な水 = 約2,500ℓ

畜産は温室効果ガスを排出する三大セクターのひとつで、ちなみに他の二つは電力と交通だそうです。これを知った夫妻は、すぐに行動しました。様々な分野の専門家呼び、教師、生徒、そして保護者を含めた関係者全員に説明、菜食について学んでもらいました。結局、事務スタッフも含め、みんなが一日一回の食事は野菜ベースの食事というコンセプト「One Meal a Day for the Planet (OMD)」に協力してくれることになりました。こうして、MUSEは完全な菜食給食を出す米国初の学校になりました。

子供たちが環境について学び、正しく行動し、そして自分の子ども達にも環境の重要性を伝えていくようになってほしい。そんな思いからわずか11人の生徒で開校した同校も、現在は二つのキャンパスで2歳から18歳までの180人の生徒が学んでいます。

「毎朝、今日は何ができるだろう、世界を変えるためにどんなメッセージを伝えられるだろう、と考えを巡らせます。」

そう話すスージー氏にとって、MUSEは未来を変えるための大事な第一歩なのです。

参考資料：アメリカ環境雑誌 green living 2016年1月号